

こうすれば日々記録が書けるようになります

～ 書きっぱなしから活用する記録への転換 ～



R3.11.18

障がい児成長支援協会セミナー

右のQRコードから
左のページの表示を
お願いします。



合同会社サンクスシェア
代表社員・相談支援専門員 田中 さとる



記録の考え方

「記録が書ける」 = 「適切な支援ができる」

【PART I】

処遇困難児の支援
の評価のために

【PART II】

日常の支援の
記録のために

PART I

処遇困難児の支援の評価のために



行動問題を防ぐサイクル

① 起きた問題行動を分析する

- ・ 【状況】 【きっかけ】 【生まれた結果】 を洗い出す

② 行動問題がおこらない環境設定をする

- ・ 事前の約束を徹底する

③ 起きてしまった行動問題をできる限り早く収める

- ・ 原因や要因の削除
- ・ クールダウンスペースの確保

④ 落ち着いたらトラブル処理をする

- ・ 謝罪や仲直り、問題である理由の説明など
- ・ 今後の約束を決めさせる（決める）

⑤ 約束に沿った対応をする

- ・ 決めた約束を決してスルーしない（すべてのスタッフ）

① 起きた行動問題の分析

【その行動のもつ意味 = 4つの機能】

機能	生じる結果	なくなる結果
注目	注目が少ない状況 →行動→周囲の注目	いやな注目 →行動→消去
活動 や物	物や活動が入手できない状況 →行動→入手できる。	いやな物や活動 →行動→消去
感覚 刺激	することがない状況 →行動→感覚刺激	いやな感覚刺激 →行動→消去
逃避	いやなことが目の前にある状況 →行動→やらずにすむ	

本人にとって、行動したことにより、どんな結果が得られ、
どんな機能があるかを適切に推測するのがプロとしての専門性

① 起きた行動問題の分析

A (状況)

店でほしいものをみつける



B (行動)

「買って～」と
大声で泣き叫ぶ



C (結果)

ほしいものが
手に入る

【3つのポイント】

レベルⅠ

『A』の状況をつくらない

レベルⅡ

『C』の結果を与えない

レベルⅢ

『B』の行動を変える

① 代わりの行動をつくる

② 望ましい行動をつくる

② 行動問題が起こらない環境設定をする

「もの」 ・・・ものを使って環境そのものをコントロールする

例：壁向きに配置した机で学習する

「ひと」 ・・・いわゆる誰が対応するか 人による対応の仕方

例：重要なルールをインプットしてほしい時、管理者に話をしてもらう

「こと①」 ・・・活動内容やイベントのコントロール

例：「今日のおやつコーナー」などスケジュールボードの提示をする

「こと②」 ・・・空間・場所のコントロール

例：学習やおやつの時間に座る席を指定する

「こと③」 ・・・時間帯や時間の長さ、順序などのコントロール

例：本人合わせた、時間入りのスケジュール表を準備する

見える

見えない

- ・ 観察（自然観察・実験的観察）
- ・ 面接（本人や保護者、関係者からの聞き取り・情報収集）
- ・ 質問紙法（アンケート）
- ・ 検査法（学力検査 知能検査 性格検査 投影法
人間関係検査 作業検査法 各種心理検査）
- ・ ポートフォリオ（連絡帳 写真 創作作品 絵画 感想文など）

記録と評価 | なぜ記録が必要なのか

① 変化を把握する

- 強度行動障害のある人の状態はさまざまな環境の影響を受けて変化する。
- 場面による行動の違い、週・月・年単位での行動の変化がある。
⇒客観的な記録があることによって、スタッフ間や他機関との共通理解が図りやすくなる。

② 原因を考える

- 必ずしも支援の計画を立てる段階で、背景にある原因を考えるのに十分な情報があるとは限らない。
⇒支援計画を立てて実施した後も、情報を収集して、それを元に支援を再検討する必要がある。

記録と評価 | ① 変化を把握する

【変化を把握するための記録】

1. 問題となっている行動に着目する
例) 頻度、強度、持続時間
2. 記録する時間帯や場面等を決める
例) 1日を通して、時間の区切りごとに、場面ごとに
3. 継続できるように工夫する
例) 既にあるものを活用する、置く場所、期限を設ける

【期間を決めて変化をまとめる】

- ひとめでわかるように整理する
例) 折れ線グラフ、一覧表

記録と評価 | ② 原因を考える

【関連しそうな情報を集める】

■障害特性やスキルをもう一度調べる

例) 苦手なこと、得意なこと、できること、できないこと

■生活全体の状況を確認する

例) 家庭・家庭の状況、生活のパターン

■生理・医学的な情報を収集する

例) 睡眠、病気、服薬、周期的な変化

【できているとき・できていないときの環境を詳しく見る】

■問題が生じた前後の状況を整理する

例) 機能的アセスメント（機能分析、ABC分析）

■チェックする行動・・・『他の利用者につかみかかる』

- ・ 起きた時刻：
- ・ 落ち着くまでにかかった時間：
- ・ 前兆（低い唸り声、体を前後に揺する等）：

日	曜日	9	10	11	12	13	14	15	16
1	月	9:40			12:10				
2	火						14:30		
3	水		10:30				14:40		

記録と評価 | A児の行動記録

記録様式の例 レベルⅡ

- 他の利用者につかみかかる・・・●
- 危険を感じた・未然に防いだ・・・○
- その他の攻撃等・・・×

活動	10/13 (月)	10/14 (火)	10/15 (水)	10/16 (木)	10/17 (金)
来所・準備	●	○		×	
学習					
自由時間 (余暇)	● ● ×			○○	
おやつ		××			
休憩時間	○			● ○	● ○
集団活動					
自由時間 (余暇)		●			
帰りの会	○×				● ○

記録と評価 | A児の行動記録

記録様式の例 レベルⅢ

起きた場面・状況	起きた行動	行動の後に起きたこと
<ul style="list-style-type: none">15:30頃、活動に向かう途中C児が大声を出しながら部屋内を行ったり来たりしていた気にするA児にB職員が制止して別の部屋に促した	<ul style="list-style-type: none">C児を気にして近づこうとした職員に制止されると興奮が高まり壁を蹴った	<ul style="list-style-type: none">B職員の誘導で別の部屋に移動し、作業に取り組むことができた作業をしているうちに興奮は治まった
<ul style="list-style-type: none">16:00過ぎ、散歩前のトイレ入れ違いにC児がトイレから出てきた	<ul style="list-style-type: none">突然、C児に頭突きをした	<ul style="list-style-type: none">B職員が制止静養室に誘導され、落ち着くまで一人で過ごした（約30分）

※関連しそうなその他の情報

- 前日の夜は寝付きが悪く、睡眠時間が4時間程度。
- 最近、睡眠が乱れているとの母からの情報あり。

レベル	記録の内容と方法
レベルⅠ	まずは、『 あり 』 『 なし 』 程度の情報を、 とにかく書き留めるだけ
レベルⅡ	場面ごと、行動の種類ごとに 『 記号 』で書き留める
レベルⅢ	どのような場面で、どんなことが起きたのかを 『 文章記述 』で書き留める

記録の入力フォーム（提案）

【アセスメントに活用する記録】

「A児」個別記録

*必須

1 いつ? *

日付
年/月/日

2 だれが? *

選択 ▼

3 発達-① 「わかった」の言動がありましたか？

- なかった
 あった

3 発達-② どんな場面でありましたか？（記述）

回答を入力

4 学習-① 学習時の集中時間は？

- 15分以上
 10分～15分
 5分～10分
 5分未満

4 学習-② 集中できた時の具体的支援は？（記述）

回答を入力

5 人間関係-① 自分から他児へ話しかける場面がみられましたか？

- あった

「A児」個別記録フォーム

- 1 いつの記録？
- 2 だれが記録？
- 3 発達のアセスメント
- 4 学習のアセスメント
- 5 人間関係のアセスメント
- 6 体験のアセスメント
- 7 行動問題の記録

PART II

日常の支援の記録のために



なぜ書くのか？【目的】

目的を意識
しながら書く

『記録』がもつ主な機能

① 記録を残すことの機能

- ・ サービス提供の実施記録（行政への報告）
- ・ サービス提供の情報共有（関係者・機関との連携）
- ・ サービス提供の証拠（リスク管理）

・・・事故 けが 防災 衛生 人権 ※ ヒヤリハット記録 

② 記録を書くことの機能

- ・ 利用児へのサービス提供の質の向上（対症療法から事前手立てへ）
- ・ 支援員の支援力の向上（『みる』視点の深まりと広がり）

なにを書くのか？【内容】

個別支援計画を
意識して書く

【個別支援計画の意識のもとに書く】

『その子の生活のしやすさが向上すること』

→ 「行動問題分析項目」

をベースに子どもを『みる』

『みる』領域・カテゴリ

子どもを『みる』視点

・ 行動の

【内容】

【量】

【質】 (ex.頻度 反応時間

の『変化』

なにをねらって療育活動をする？

児童発達支援ガイドライン (厚生労働省)

健康・生活	健康状態の把握 健康の増進 リハビリテーションの実施 基本的な生活スキルの獲得 構造化等により生活環境を整える
運動・感覚	姿勢と運動・動作の基本的技能の向上 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 身体の移動能力の向上 保有する感覚の活用 感覚の補助及び代行手段の活用 感覚の特性 (感覚の過敏や鈍麻) への対応
認知・行動	感覚や認知の活用 知覚から行動への認知過程の発達 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成 数量、大小、色等の習得 認知の偏りへの対応 行動障害への予防及び対応
言語・コミュニケーション	言語の形成と活用 受容言語と表出言語の支援 人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 指さし、身振り、サイン等の活用 読み書き能力の向上のための支援 コミュニケーション機器の活用 手話、点字、音声、文字等のコミュニケーション手段の活用
人間関係・社会性	アタッチメント (愛着行動) の形成 模倣行動の支援 感覚運動遊びから象徴遊びへの支援 一人遊びから共同遊びへの支援 自己の理解とコントロールのための支援 集団への参加への支援

どう書くのか？【方法】

なぜ？を
重視して書く

① 分類項目を意識する

なぜ それを記録に残そうと思うのかを問う
(その記録のもつ意味や必要性)

② インデックスを記述する(40文字程度)

インデックス(表題)を読めば、
第三者が読んだとしてもわかるように書く

- ・ なんについての記録が書かれているのか？
- ・ なぜその記録が残されているのか？

③ 詳細欄に正確な事実を記述する

【留意したいポイント】

- ・ 個別支援計画との整合性をみる
- ・ 事実と推測を区別する
- ・ 5W1Hを意識する
- ・ 支援者側が働きかけたことを記録する
- ・ 人権に配慮した文章にする(敬体必要なし)
- ・ 開示を求められた場合を意識して書く
- ・ その子の成長に寄与する意識を常にもつ

実際に書いてみましょう！

記録の入力フォーム（提案）

【アセスメントに活用する記録】

『日々の記録』フォーム

子どもの1日全体を通しての利用を記録します。【留意したいポイント】
・個別支援計画との整合性をみる ・事実と推測を区別する ・5W1Hを意識する
・支援者が働きかけたことを記録する ・人権に配慮した文章にする（敬語必要なし）
・開示を求められた場合を意識して書く ・その子の成長に寄与する意識を常にもつ

*必須

1 いつの記録ですか？*
日付
年/月/日

2 だれが記録しますか？*
選択

3 誰の記録ですか？*
選択

4 活動内容は？
 自立支援活動
 創作活動
 地域交流活動
 余暇活動
 その他: _____

5 内容を記述してください*
回答を入力

6-① 内容分類は？（分類Ⅰ）
 心理

『日々の記録』フォーム

- 1 いつの記録？
- 2 だれが記録？
- 3 だれの記録？
- 4 活動内容は？
- 4 内容の記述は？
- 5 分類は？（ⅠⅡ）
- 6 利用は？
- 7 送迎は？
- 8 延長は？
- 9 加算は？
- 10 おやつは？
- 11 弁当は？

PART Ⅲ

記録を「活かす」「活用する」



支援の振り返り 【分析】

どのような記録を残してきたでしょうか？

記録の適切性を保ち、

質の向上を図るには

自分の記録を見直すこと

が一番の早道です！

- 1 フィルタ機能・・・記録シート
(目的の記録を選び出す)
- 2 分析機能・・・分析シート
(他と比べて傾向をみる)

—振り返る際の分析項目—

- ・ 日付
- ・ 利用児
- ・ 分類
- ・ 事業
- ・ 特記
- ・ 記録者
- ・ 検索キーワード

The screenshot shows an Excel spreadsheet with a PivotTable. The PivotTable has '分類Ⅱ' as the row field and '個数 / インデックス' as the column field. The data is summarized as follows:

分類Ⅱ	個数 / インデックス
その他	8
感覚機能	2
人間関係	1
多動	1
体調	1
表現	4
(空白)	29
総計	46

The PivotTable Fields task pane on the right shows the following fields selected:

- 分類Ⅱ
- 分類Ⅲ
- インデックス
- 事業
- 特記
- 記録者

支援の振り返り 【分析】

1 フィルタ機能・・・記録シート (目的の記録を選び出す)

【フィルタの項目】

- ・ 児童名
- ・ 分類
- ・ 記録者
- ・ 日付 期間
- ・ 検索ワード

The screenshot shows the Microsoft Excel interface with the 'データ' (Data) tab selected. A filter menu is open over the '氏名' (Name) column of a spreadsheet. The filter menu includes options for sorting (昇順(S), 降順(O)), color sorting (色で並べ替え(I)), clearing filters (氏名" からフィルターをクリア(C)), color filtering (色フィルター(I)), and text filtering (テキストフィルター(E)). A search box is visible with '小山 宙' selected. The spreadsheet data includes columns for date (日付), day (曜), name (氏名), and classification (分類I, 分類II, 分類III). The status bar at the bottom indicates '準備完了' (Preparation complete).

	A	B	C	D	E	F
1	日付	曜	氏名	分類I	分類II	分類III
22	H28.5.7	土	帖佐 宥美	コミュニケーション	表現	その他
23	H28.5.7	土	帖佐 宥美	身体	感覚機能	その他

支援の振り返り 【分析】

2 分析機能・・・件数の傾向をみたいときに活用できます

一分析シートの使い方

- ① ピボットテーブルを挿入
「挿入」タブ→「ピボットテーブル」
- ② 範囲の指定
- ③ 分析してみたい項目を選ぶ

※複数の項目を重ねて分析することが可能

- ④ 集計表(集計値)を表示する

ピボットテーブル ツール 個人記録.xls [互換モード] - Excel

ファイル ホーム 挿入 ページレイアウト 数式 データ 校閲 表示 分析 デザイン

ピボットテーブル名: アクティブなフィールド: 個数 / インデックス

ピボットテーブル2: 個数 / インデックス

ピボットテーブル オプション: フィールドの設定

アクティブなフィールド: 分類 II

個数 / インデックス	分類 II	その他	感覚機能	人間関係	多動	体調	表現
コミュニケーション	その他	1		1			4
健康						1	1
行動障害		1				1	
社会生活		4					
身体		1	2				
日常生活		1					
(空白)							
総計		8	2	1	1	1	4

ピボットテーブルのフィールド

レポートに追加するフィールドを選択

検索

分類 I
 分類 II
 分類 III
 インデックス
 事業
 特記

次のボックス間でフィールドをドラッグ

フィルター

行

分類 I

レイアウトの更新を保留する

- 分析例)
- ・ 利用児童と分類の傾向
 - ・ 職員と分類の傾向
 - ・ 利用児と期間の傾向
 - ・ 全体の分類の傾向

実際に書いてみましょう



『記録の生命線は、目標設定』

「自然観察」 × → 「仮説検証観察」 ○

自然観察

仮説検証観察

目標達成がみえる『視点』がカギ(絵本読み聞かせ活動)

10分間くらいの絵本の読み聞かせ活動を実施した際の記録

【支援員として】

あなたは、あとで、児発管さんに活動がうまくいったかどうかの報告をする予定です。どんな内容を報告（記録）しますか？

目標達成がみえる『質問』づくりがカギ(絵本読み聞かせ活動)

- 参加児は何人いたか？（参加意欲）
- 声かけから集合まで何分かかったか？（参加態度）
- 途中、逸脱した子は何人だったか？（行動問題）
- 開始1分後・5分後・9分後、絵に視線を向けていた子は
何人だったか？（集中力の持続度）
- 読み聞かせ後の、クイズに正解した子は何人だったか？（理解）
- 次も読み聞かせを希望した子が何人いたか？（活動の成果）

「支援」と「記録」のセット

【記録のイメージ】

	もの	ひと	こと
支援	<p>① 子どもたちに人気投票をしてアンケートした上位2つの絵本を選んで読み聞かせをした。</p> <p>② 座るスペースに前もって座布団を並べておき、集合の声かけをした。</p>	<p>A話が終わった後に、絵本の内容についてクイズを出すことを事前にアナウンスしてから読み聞かせを始めた。</p> <p>B座位保持の難しいA児の横にB支援員を配置し、座り方のモデル提示をした。</p>	<p>A普段から確認している「読み聞かせのきまり」をみんなで唱和してから活動を始めた。</p> <p>イ横同士で座ると私語をしたりふざけたりするC児とD児は、距離が離れるようあらかじめ座る場所の指定を行った。</p>
結果 記録	<p>① '10人の参加児のうち、8人が興味をもって最後まで集中して絵本の読み聞かせに参加した。</p> <p>② '座る場所で押し合うことなく自分の座る場所を上手に決めることができた。</p>	<p>A'登場人物の人数と名前を正解した子は7名だった。</p> <p>B' A児は、時折座位保持が崩れたが、その都度、横にいるB支援員の姿を見て座位保持の立て直しをしていた。</p>	<p>A' 5名ほどの子どもが「決まり」の掲示物を見なくても唱和できた。</p> <p>イ'過去に時折読み聞かせ邪魔をするC児が、最後まで活動の邪魔をすることなく読み聞かせに参加できた。</p>

② 行動問題が起こらない環境設定をする

「もの」 ・・・ものを使って環境そのものをコントロールする

例：壁向きに配置した机で学習する

「ひと」 ・・・いわゆる誰が対応するか 人による対応の仕方

例：重要なルールをインプットしてほしい時、管理者に話をしてもらう

「こと①」 ・・・活動内容やイベントのコントロール

例：「今日のおやつコーナー」などスケジュールボードの提示をする

「こと②」 ・・・空間・場所のコントロール

例：学習やおやつの時間に座る席を指定する

「こと③」 ・・・時間帯や時間の長さ、順序などのコントロール

例：本人合わせた、時間入りのスケジュール表を準備する

見える

見えない

演習（仮説検証観察） B児

家族の状況	父(単身赴任)・母・姉(同居)			
関係機関	計画相談事業所〇〇(〇〇氏)・放課後等デイサービス△△			
主訴	心のケアもして欲しいです。人間関係を学んでほしいです。課外活動の様に様々な所に連れて行ってほしいです。			
総合的支援目標	精神的な安定感を得ることで、幅広い人間関係を作れるよう支援します。 課外活動では、様々な体験を通して自信をつけ、情緒豊かに楽しめるよう支援します。			
長期目標	一人でも安心して主体的な行動ができるようになります。			
短期目標	大人との信頼関係を築きながら、安心して活動に参加できるようになります。			
領域	発達課題 (～が必要)	援助目標	支援の種類・内容・量等	評価 時期
発達支援	ワーキングメモリの低さがあり、言葉の保持が難しいようです。	理解できるように話すことや、必要に応じては視覚情報を用いながら、“わかった”を実感につなげます。	① コミュニケーション・サーキット 4つの課題を通して、人と協力する事（一緒に行なう）、タイミングを合わせる事、譲り合う事、からだへの意識を向けコントロールする事などを学びます。	6ヶ月
学習支援	不注意優勢があることで気が散ったり、長く集中することが難しいようです。	宿題や事業所で用意した課題等、1対1で取り組みながら達成感を味わい、集中力を養います。	② SST・体幹トレーニング ・場面設定を行い、思いの共有や伝え合う練習等を通して自己・他者理解につなげます。 ・自体感や体のコントロールを図ります。	6ヶ月
人間関係	一人に固執する様子がみられます。様々な人との楽しい関わりを持てるようになることが良いです。	信頼関係を築いた大人から、徐々に子ども達に目を向けられるよう支援します。	③ 余暇活動支援（遊び方の工夫） 自分一人や、相手と楽しく過ごせるよう、様々な遊びを通して支援します。 他に、施設外の課外活動等を行い、様々な体験を積みながら成功体験を増やし、自己肯定感を高めます。	6ヶ月
経験・体験	様々な経験を通して成功体験を積み、自信につなげていくことが良いです。	公園、施設、食事、見学など、様々な体験を通して達成感を得られるよう支援します。	④ 工作・調理活動 その季節に応じて適した工作物や調理を作ることで、1年の意識や手指の巧緻性、集中力、段取りなどを養い、達成感を味わいます。 ⑤ 個別面談（心理療法各種） ストレス緩和やリラクゼーション方法、自己・他者理解等に努めます。	6ヶ月



スクイーズ
づくり



演習Ⅱ（仮説検証観察） B児



「〇〇の支援をしたところ、□□の行動がみられました」

【記録の重要point】

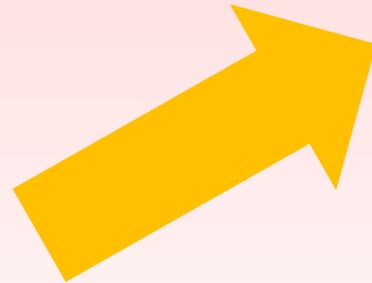
- どのような姿を目指すのかが明確である
 - ※ 個別支援計画の本人の課題を意識できている
- それは、個別支援計画のどの目標とリンクするかが明確である

- それは、どのような支援をすればみることができかが明確である
 - ※ 支援の3つの窓「もの」「こと」「ひと」を意識できている

- それを、子ども本人に、どのように伝えるのかが明確である
- それを、保護者や関係者にどのように伝えるのかが意識できている
- 連絡帳、連絡ノートに何を記述するのかが意識できている

状況と時期の
適切な見立て

① 行動問題の発生
を回避する

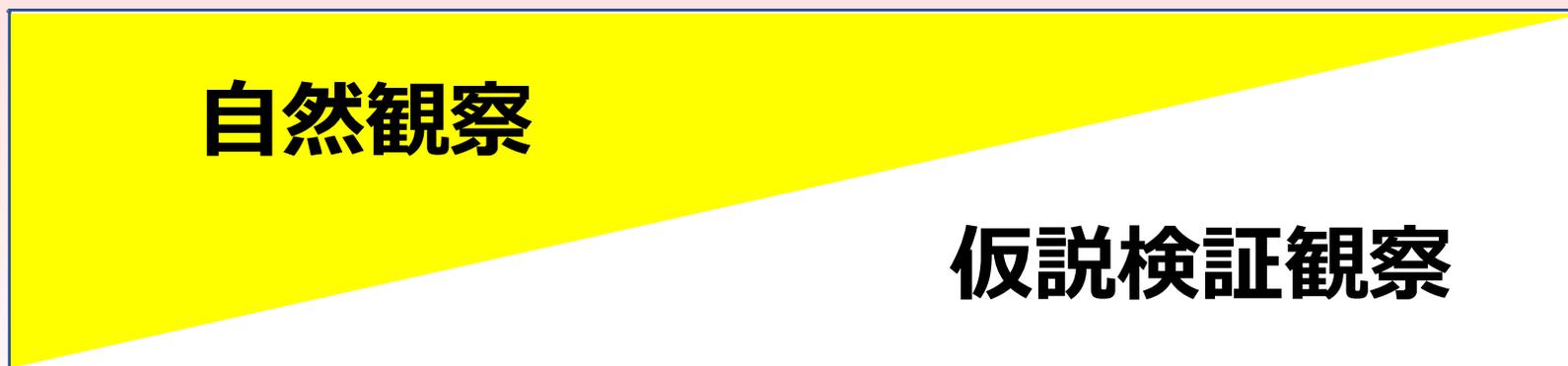


② 望ましい行動を
身に付けさせる

- 問題の分析
- 問題を回避する環境設定
(もの・ひと・こと)

- 環境設定をあえて緩める
- 成功体験を積む

「自然観察」 × → 「仮説検証観察」 ○



記録をイメージして支援を組みたてるのがプロ！

スキル育成の大前提

「障がい」の2つの“D”

Disability

Learning Disability, LD

The screenshot shows the Weblio dictionary page for the word "ability". The search bar contains "ability" and the page is set to "と一致する" (Match exactly). The main content area is titled "abilityとは" (What is ability?). It includes a main meaning: "主な意味 できること、能力、技量、力量、才能" (Main meaning: things that can be done, ability, skill, strength, talent). A "new!" tag indicates a link to "イラストで分かる英単語" (English words explained with illustrations). The page also shows the pronunciation "a·bil·i·ty" and a table with details about the word's usage and learning level.

Disorder

Attention-deficit hyperactivity disorder、ADHD

The screenshot shows the Weblio dictionary page for the word "order". The search bar contains "order" and the page is set to "と一致する" (Match exactly). The main content area is titled "orderとは" (What is order?). It includes a main meaning: "主な意味 順序、順、語順、整理、整頓(せいとん)、整列、(...の)状態、調子、(社会の)秩序、治安" (Main meaning: order, sequence, word order, organization, arrangement, state, rhythm, order, security). A "new!" tag indicates a link to "イラストで分かる英単語" (English words explained with illustrations). The page also shows the pronunciation "or·der" and a "コア" (Core) section explaining that "order" refers to a sequence or arrangement.

『新たなできる』をつくる・『今あるできる』を増やす の見極め